UNIVANCE

環境報告書2026

もくじ

ごあいさつ		3
ユニバンス経営理念群		4
環境理念・方針		5
環境中期計画		6
環境目標達成状況		7
環境改善活動に関するデータ		8
環境マネジメント		9
環境に対する取り組み	再生可能エネルギー導入推進	10
	電化の推進	11
	省エネルギー推進	12
	購入品CO_2削減	14
	水資源に対するアプローチ	15
技術による環境への貢献		16
地域の皆さまとのコミュニケーション		18

ごあいさつ

環境価値を競争力へ ――
Vision2030の実現に向けて

代表取締役社長　髙尾　紀彦

2023年にスタートした当社の中期経営戦略「Vision2030」は、本年度で4年目を迎えました。この間、自動車業界を取り巻く環境は大きく変化し、電動化を中心とした流れからからマルチパスウェイへと移行し、生き残りをかけた競争はますます激しさを増しています。

こうした状況において、お客さまから求められる価値も変化しています。QCD（品質・コスト・納期）の競争力はもはや前提条件であり、BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）への対応や環境・社会課題への取り組みを含めた企業全体の総合力が評価される時代となりました。

その一方で、私たちが強化すべき課題も明確になっています。日本市場で求められる多品種少量生産への対応力や、CO_2排出量の削減につながる工程・工法・設備の開発は、ユニバンスならではのものつくり力を発揮できる領域です。これらを磨き上げることが、お客さまへの新たな価値提供と競合との差別化につながると考えています。

私たちは環境への取り組みを企業成長の原動力と位置付け、ユニバンスの総合力を結集して持続可能な社会の実現と、Vision2030の達成を目指してまいります。

当社の強みである『技術』を活かし
社会課題解決とカーボンニュートラルの実現を
加速させます

環境管理責任者　藤崎　一

当社は持続的な成長と企業価値向上のため、事業を通じた会課題解決を目指しています。

環境保全は重要課題として、環境方針のもと企業活動と地球環境の調和に向けた活動を推進しています。

本年度は「Vision2030」を更新し、カーボンニュートラルの達成時期を従来の目標から5年前倒しいたしました。

これまでの省エネ活動をグローバル規模でさらに深耕・推進するとともに、「商売創りを通じた社会課題解決」を活動の要と位置づけています。

当社の強みである「技術」を最大限に活かし、事業活動そのもので環境保全に貢献することで、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

ユニバンス経営理念群

Be UNIVANCE！

社名の由来である４つのフレーズにつながる行動指針に従って企業活動を行うことで
経営ビジョンを体現し、企業理念の達成を目指します。

環境理念・環境方針

環境理念

株式会社ユニバンスは、環境保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に配慮して行動します。

環境方針

当社グループは、
将来世代へより良い地球環境を引き継ぐため、環境に優しい「ものつくり」を追求し、企業活動と地球環境の調和を図っていきます

1　ルールを守り、地球環境に配慮した企業活動を行います
2　資源、エネルギー等の使用を最小限にします
3　環境リスクを抽出し、未然防止を継続的に行います

環境中期計画

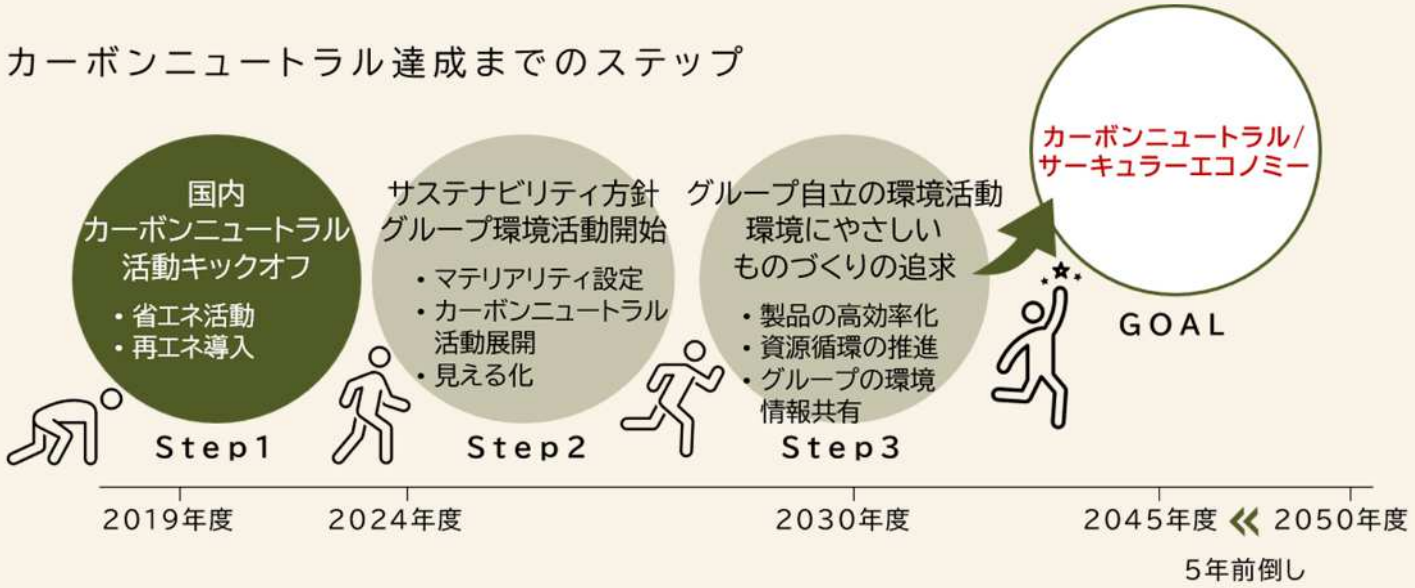
当社の中期経営計画「Vision2030」の、「『ものつくり』を通じた『ことつくり』で社会に貢献する」を目指す上での社会的課題として、持続可能な社会の実現に向け、グループ全体で環境価値を創出するため、環境中期経営計画に基づいて活動に取り組んでいます。

中長期環境目標

資源効率の向上と環境負荷の最小化を軸に、グループ全体でカーボンニュートラル（ CO_2等の温室効果ガスの排出を実質ゼロ）とサーキュラーエコノミー（廃棄物ゼロ ）を目指します。

環境中期計画取り組みのステップ

日本拠点は2019年よりカーボンニュートラル活動をスタートしており、2030年目標（カーボンハーフ）は前倒しで達成する見込みです。
また、カーボンニュートラル達成目標を当初の2050年度から2045年度に前倒しすることを今年度決定しました。
国内・海外関係会社については、2025年度から活動を開始しました。



環境目標達成状況

環境事故件数 ～重大・軽微環境事故件数目標～

2025年度環境事故に関する目標と実績

重大環境事故（グループ全体） 目標 0件 実績 0件（前年比 ±０）

※軽微環境事故（ユニバンス単体） 目標 28件 実績 34件（前年比 －2）

※軽微環境事故は応急処置および恒久対策、注意喚起を行い、再発防止措置を実施しています。

CO_2排出量 ～カーボンニュートラル目標～

2025年度CO_2排出量削減実績（2012年度基準）

グループ削減 目標 33%削減 実績 52%削減

CDP Discloser 2025

環境情報開示の国際評価 CDP

2025年度成果と課題が浮き彫りに
省エネ法評価制度では引き続きＳクラスをキープ

企業の環境への取り組みを評価するグローバル指標「CDPスコア」。当社の2025年度の評価は、サプライチェーン分野が「B-」、気候変動分野が「C」と、ともに前年から2ランク低下した一方、水セキュリティ分野は「B」と前年から1ランク向上しました。

この結果の背景には、CDPの評価基準が年々厳格化するなかで、当社の取り組みや情報開示が十分に追随できていないことがあります。特に、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出量を対象とする「Scope3」への対応強化や、お取引先さまとの協働、自然環境への依存・影響の適切な管理が今後の重要な課題となっています。

なお、資源エネルギー庁が定期報告書提出事業者を省エネルギーへの取り組み状況に応じて評価する「事業者クラス分け評価制度」では、昨年度に引き続き、最上位区分である「Sクラス」に認定されています。

環境改善活動に関するデータ

ユニバンスグループのCO_2排出量・削減率推移

CO_2・廃棄物排出量、リサイクル率

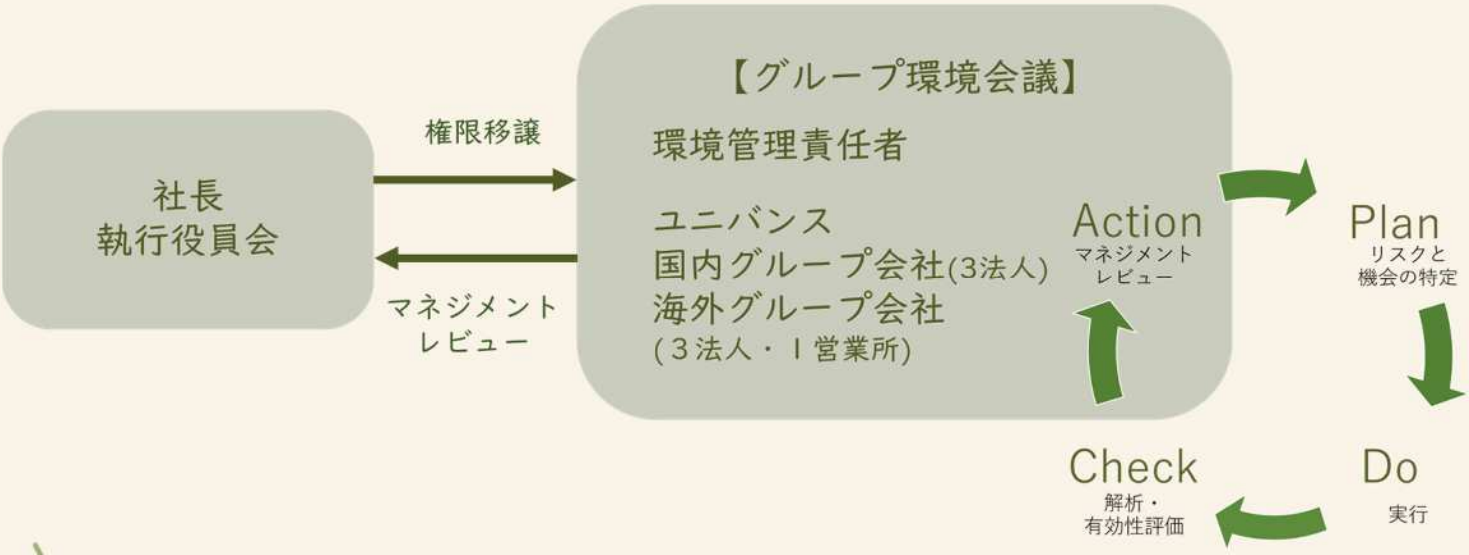
	単位	2023年度	2024年度	2025年度
CO_2排出量（SCOPE1、2）（本社・湖西・浜松工場）	t-CO_2	28,564	18,334	16,573
CO_2排出量（SCOPE1、2）（国内・海外関連子会社）	t-CO_2	19,890	18,865	19,655
廃棄物等総排出量（リサイクル率）	t（%）	10,393（96%）	8,618（95%）	9,114（95%）
水資源使用量	m^3	35,560	34,557	34,440
化学物質管理（PRTR届出取扱量）	kg	14,532	9,600	10,190

日本拠点の2024年度以降の大幅なCO_2削減はグリーン電力導入によるもの。2025年度は省エネ活動の継続、エア設備更新による高効率化や太陽光発電設備導入による削減効果。

環境マネジメント

当社では、環境に関する国際規格「ISO14001」認証を取得しています。

環境活動推進体制



ISO14001認証

2003年
株式会社ユニバンス取得

2008年
株式会社富士部品製作所取得

2016年度取得
UNIVANCE (Thailand) Co., Ltd. 取得

2019年度取得
PT. UNIVANCE INDONESIA取得

【参考】
2007年度
株式会社遠州クロム
エコアクション21取得

環境に対する具体的な取り組み

再生可能エネルギー導入推進

温室効果ガスの排出量と吸収・除去量を差し引きゼロにする「カーボンニュートラル」を達成するためには再生可能エネルギーの導入を進めることも必要です。
ユニバンスはさまざまな再生可能エネルギーの利用を目指しています。

静岡Greenでんき

2021年9月より、本社事務所棟の電力を静岡県内の水力発電所に由来した「静岡Greenでんき」に切り替えました。
これは「電気の地産地消」であり、地域貢献にもつながります。

年間57トンのCO_2排出削減！

Greenでんき

2024年4月より、再生エネルギー100％かつCO_2フリーの「Greenでんき」を導入し、本社工場の使用電力の50％をまかなっています。

年間7,595トンのCO_2排出削減！

静岡Greenでんき・Greenでんきの導入で、2030年度目標だったカーボンハーフを2025年度に達成！

太陽光発電

2026年1月より、本社工場で太陽光発電システム(740kW)を導入しました。これにより、年間で約780MWhの電力を発電し、約350トンのCO_2排出削減効果を見込んでいます。
今後も他工場への太陽光発電システムの導入を検討していきます。

（上段左から）
本館事務所、工具棟、第３工場西トラックヤード
（下段左から）
開発厚生棟、第５工場西倉庫、第６工場

電化の推進

本社第6工場の空調設備を、冷房専用チラー+重油焚きボイラーから電気式冷温水チラーへ更新しました。
ユニバンスは化石燃料を使用する設備から電気を利用する設備への切り替えを進め、電化による環境負荷低減に取り組んでいます。

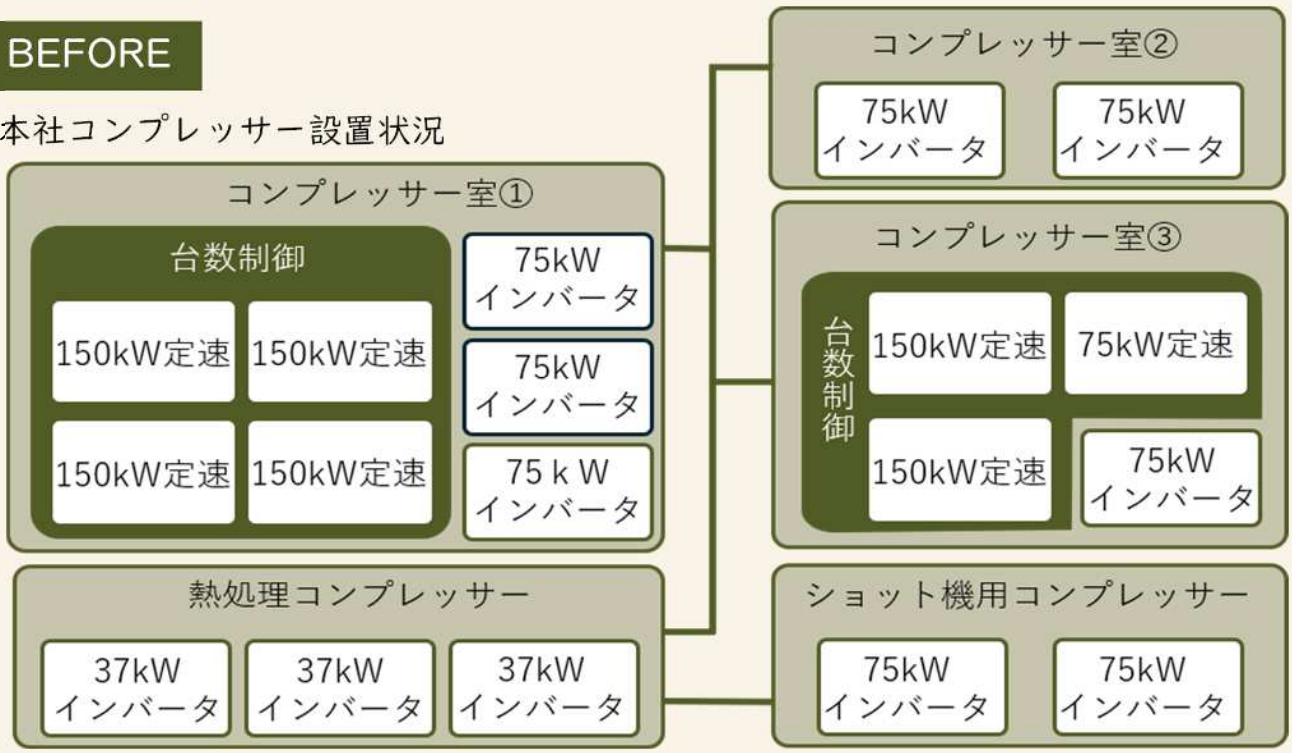
重油削減	電気代削減	CO_2排出量削減
15kℓ/年	162千円/年	44.6トン/年

省エネルギー推進 ～全社コンプレッサー更新～

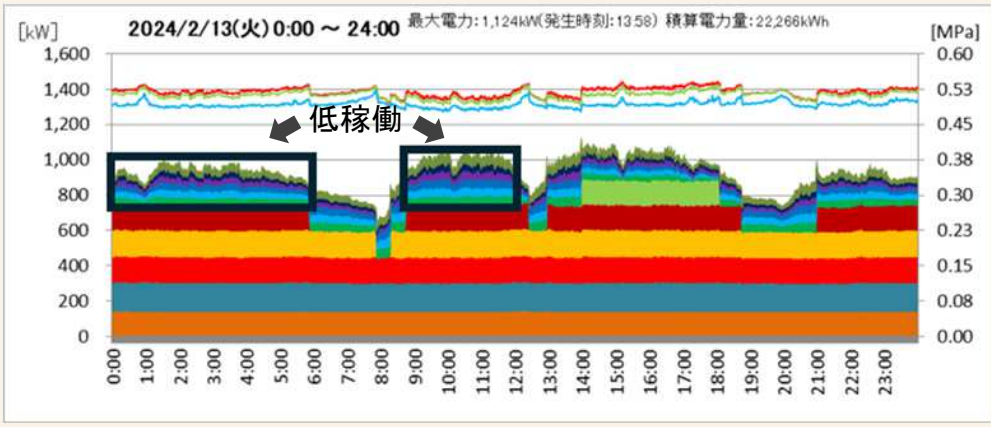
日常的な省エネルギーだけでなく、抜本的な省エネルギー施策も推進しています。
2025年度は政府の補助金を活用し、全社のコンプレッサーを最新機種に更新し、効率向上を図りました。これにより、それまで部分的だった台数制御を工場全体で行うことが可能となり、最適な運用を実現しました。

BEFORE

本社コンプレッサー設置状況



電力計測による稼働状況



- 部分的にしか台数制御できていない
- 低負荷で稼働しているインバータがある
- 老朽化で故障リスク大。性能面でも最新機との差異がある

AFTER

- 最新機種に更新し、機器効率向上
- 工場全体での台数制御で最適運用
- データの常時監視で異常早期発見

CO_2排出量削減

514トン／年

（見込み）

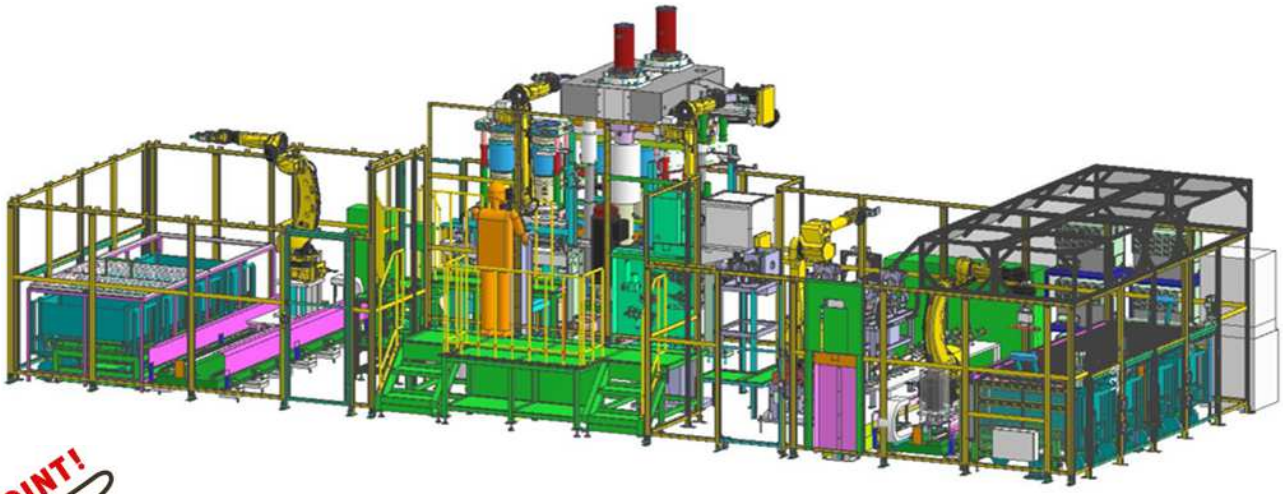
省エネルギー推進～生産設備の高効率化～

エネルギー使用量の削減に向け、生産設備の高効率化を進めています。生産ラインの設備をよりエネルギー効率の高い設備へ更新するとともに、動力の電化を進めています。また、生産活動における環境負荷の低減と同時に、人が働きやすい職場づくりにも取り組んでいます。

電動サーボプレス機導入による高効率・省人ライン化

油圧プレス機から電動サーボプレス機に切り替えることで、ライン全体の環境負荷低減、生産効率向上、競争力強化、ラインのレイアウト自由度向上を目指しました。

電動サーボシャトルプレスライン



POINT!

電動サーボプレス機導入で……

生産効率向上　環境負荷低減

生産能力：**83%** 向上　省エネ効果：CO_2排出量 **53トン/年** 削減

さらに……

- 作動油がゼロに！
- 潤滑油使用量80%削減！
- 重筋作業を廃止！
- 低棟工場対応可能！
- レイアウト自由度向上！

購入品CO_2削減

購入品に関わるCO_2排出量削減のために重要である、お取引先さまとの連携を推進しています。

取引の手引き改訂

2025年度は、サステナビリティ推進のため、取引の手引きを改訂いたしました。
また、さらなる企業価値向上を目指し、国際的なプラットフォームである「EcoVadis」の評価基準をもとにガイドラインの制定に向け、コアチームで取り組みをスタートしました。

お取引先さまCO_2排出量実態調査

Scope3におけるCO_2排出量の調査については、昨年に引き続き実態調査を進めてまいります。
また、当社で実施し、効果が確認された改善事例などをサプライチェーン全体で共有・展開し、CO_2排出量の削減目標の達成に向けて取り組んでまいります。

材料使用量の削減

当社が購入する粗材（鍛造品・鋳造品）について、形状変更による製品重量の低減に向け、関係するお取引先様とともに取り組みを進めてまいります。

水資源に対するアプローチ

社内で使用する水の量を削減する、社内から排出する水の水質基準を法定基準より厳しいものに設定する等、水資源を守る取り組みをしています。また、湖西環境保全協議会のメンバーとして地域の環境を保全する取り組みも行っています。

水質調査

湖西環境保全協議会では、湖西市内を流れる４つの河川の水質を定点調査をしています。

調査項目は、水温、川幅、流量、pH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）、BOD（化学的酸素要求量）、DO（溶存酸素）、透視度、指標生物。

結果はパネルにまとめ、「こさい環境フェア」の湖西環境保全協議会ブースで市民の皆さんにお知らせしています。

▲毎年、水質をチェックをすることが重要です

水生生物観察会

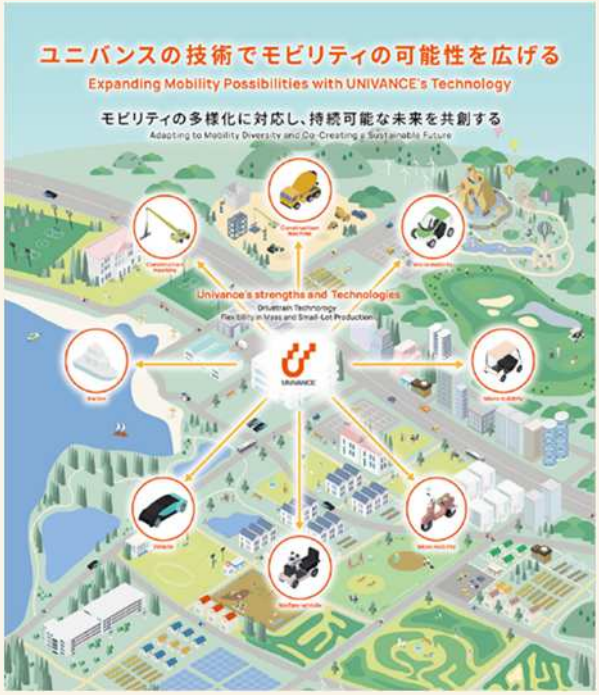
左記の水質調査の機会を利用して、湖西市内の小学生を招いての水生生物観察会を開催しています。水質調査を行っている調査ポイントで、昆虫や貝類、エビ、カニ等の水生生物を集めて観察します。

どんな生物が生息しているかで、その河川の水がきれいな状態なのか、汚れているのかが判定できます。

▲どんな生物がいるかで水質が判断できます

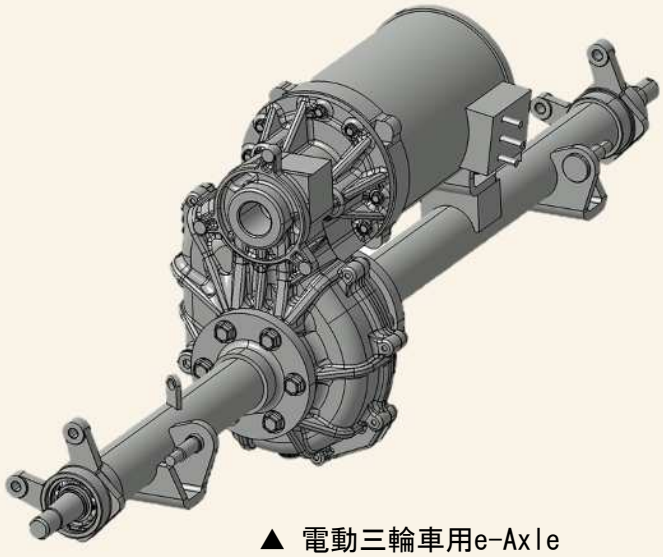
技術による環境への貢献

モビリティ市場では、カーボンニュートラルの実現に向けて電動化が進み、地域や用途に応じた多様な移動手段が求められています。
私たちは自動車分野で培ってきた技術を活用し、様々なモビリティ向けのギヤボックスやパワーユニットの開発を通じて、自動車技術の進化と環境負荷低減に貢献してまいります。



幅広い電動モビリティに応える
電動駆動ユニットの開発

地域や用途に応じた多様な移動手段の電動化に対応するため、電動三輪車用e-Axleを開発しています。
車両レイアウトや要求性能に合わせてギヤ配列、減速比、ユニットサイズを最適化するとともに、高効率・高静粛性のギヤ設計を採用しました。モーターの動力を効率よく伝達し、力強い駆動性能と快適性を実現します。
また、用途に適した性能とサイズを追求することで、小型化・軽量化を図り、電動モビリティの普及とエネルギー消費の低減に貢献します。

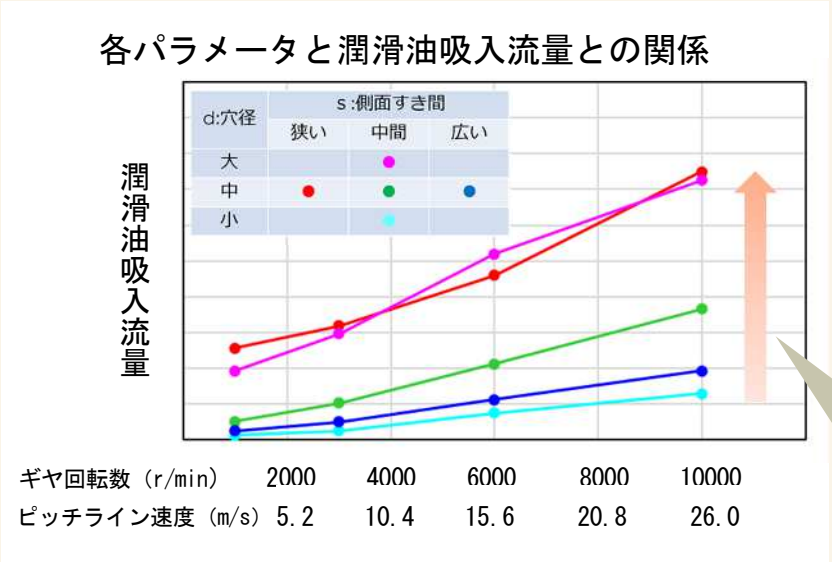


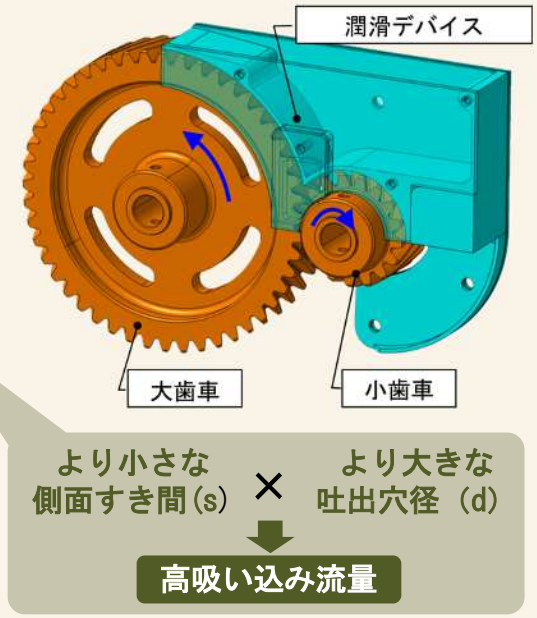
▲ 電動三輪車用e-Axle

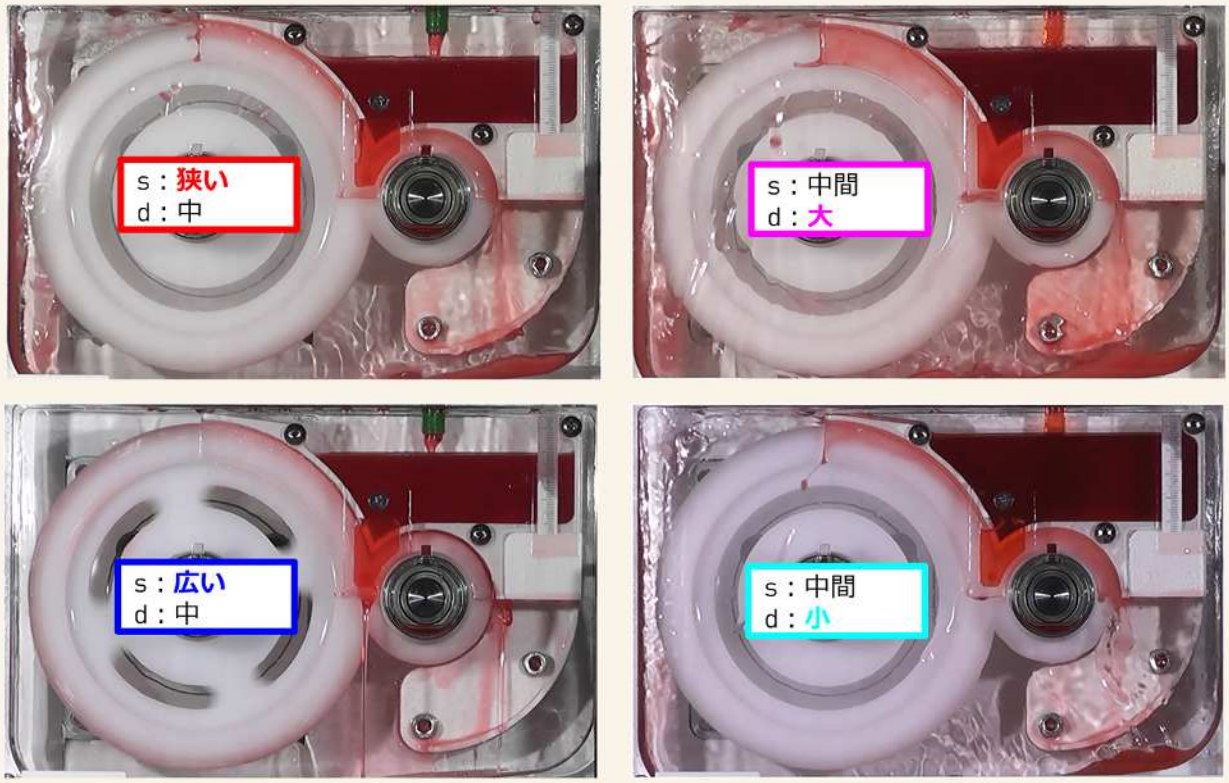
モーター最大出力〔kW〕	～20
減速比	～10
想定適用車両	電動３輪車

商品の高効率化を支える潤滑デバイスの研究

ユニバンスでは、電動駆動ユニットの高効率化に向けて、追加の動力や電力を使わずに潤滑油を供給する潤滑デバイスの実用設計に取り組んでいます。
研究を通じて、高速回転時における低損失と安定した歯面潤滑を両立する、実用的な設計指針を示すことができました。
今後は、小型・軽量かつ低損失な減速機への適用を目指します。







10,000r/minにおける各条件の潤滑油の状態

地域の皆さまとのコミュニケーション

ユニバンスでは、地域の皆さまとの共存・共栄を目指し、良き企業市民として環境に貢献する取り組みをしています。

こさい花いっぱい運動

湖西市の「こさい花いっぱい運動」に参加し、本社工場周辺に花を植えています。
また、就労継続支援事業所・浜名学園なぎさ作業所で生産した花苗も購入し、植えています。

静岡県グリーンバンク

公益社団法人「静岡県グリーンバンク」に賛助会員として参画しています。
静岡県グリーンバンクは、静岡県に緑を増やすため、花の種や苗木の提供、緑化ボランティアの育成、森を豊かに守ることを応援する「緑の応援団」です。

浜名湖クリーン・古見川きれい作戦

浜名湖周辺の自治体（浜松市・湖西市・静岡県）や商工会、観光協会、企業等で構成する「浜名湖の水をきれいにする会」が主催する「浜名湖クリーン作戦」「古見川きれい作戦」に参加しています。

◀ 浜名湖クリーン作戦

古見川きれい作戦 ▶

不要パソコン寄贈

UNIVANCE INC.

使用しなくなったパソコンを、地域の高校に寄贈し、学習用ツールとしてご活用いただいています。

地域清掃・マングローブ植樹活動

PT. UNIVANCE INDONESIA

工業団地の清掃活動や、お客さま主催のティリス海岸・マングローブ植樹活動に参加しています。

海岸清掃・植樹活動

UNIVANCE (Thailand) Co., Ltd.

人気の海水浴スポット、バンセーンビーチでの清掃活動や、工業団地の植樹活動に参加しています。

浜名湖クリーン作戦

株式会社富士部品製作所

浜名湖クリーン作戦に、毎年参加しています。

株式会社ユニバンス

環境報告書 ー2026年度ー

2026年10月発行